

第22回日本レクリエーション学会 大会の開催にあたって

日本レクリエーション学会

会 長 浅 田 隆 夫

今日、わたくし達の生活の上にはさまざまな変化が急速に生じつつあります。すなわち、科学技術の革新や産業構造の変化 — 労働時間の短縮・余暇時間の増大 — 、社会環境の変化など。また、これに伴って平均寿命の延長、子どもの数の減少、核家族化、教育水準の向上などがあげられます。

一般に、生産生活は余暇生活をよりよく生きるための労働ですが、いずれの生活にせよ、生活にとって大切なことは生き方と生きる手段であり、この二つの要素がどんな関係にあり、いかに統合されているかによって生活は決定するといえましょう。生きる手段とは便利さや能率性・省力性などがあげられますが、これらは経済のメカニズムから生まれた価値規準です。今日ではそれよりも、どのように生きるかとか、生きていく過程が重要になりました。

どのように生きるかということは、つまるところ個人（意識）の問題であり、またその個人の生活の場であるコミュニティ意識の問題でもあります。独自の自然的、文化的風土をもつコミュニティという地域的限定を考えると、既に場所的意識がその基底に存在しているともいえますし、また、ここでの生活や文化のあり方が最も重要になります。

何年か前からそれぞれの生活文化領域で「〇〇行動計画」などと称して各省庁から基本計画が提示されていますが、これの実践化に当って、現在では各市町村で改めて具体的な実行可能なプランの練りなおしが行なわれつつあります。

思うに、わが国の余暇問題はハード面もソフト面も先進諸国に較べて、かなり、たち遅れています。

このような意味で、本年度のシンポジウムは国際的・国家的レベル（含企業）の資料をもとに日本の余暇問題を「人」と「環境」の二側面から、両者の共生のあり方を巡って新しい視点から討議することになりました。

願くば、これらの知見を自己の生活やコミュニティの生活に生かす糧にして頂けたらと思います。

会員の発表の他、斯界の有識者を迎えての記念講演・シンポジウムに、多くの方々の参加を心から期待しています。

日本レジャー・レクリエーション学会 第22回大会開催要領

1. 主催 日本レジャー・レクリエーション学会
2. 主管 日本レジャー・レクリエーション学会第22回大会実行委員会
3. 日時 平成4年11月7日(土)・8日(日)
4. 会場 立教大学
〒171 東京都豊島区西池袋3-34-1
5. 日時 11月7日(土)
10:00～ 理事会
12:30～ 受付
13:30～ シンポジウム (第1:5124番教室)
(第2:5125番教室)
16:00～ 休憩
16:30～ 統括・記念講演 (5322番教室)
18:30～ 懇親会 (セントポールズ会館)
11月8日(日)
8:30～ 受付
9:30～ 研究発表 (A会場:5221番教室)
(B会場:5223番教室)
13:30～ 総会 (5222番教室)
14:30～ 研究発表 (会場は同上)
6. 研究発表 レジャー・レクリエーション研究第22回大会発表論文集として掲載

第22回日本レジャー・レクリエーション学会 大会本部企画

□ 大会テーマ

「レジャー・レクリエーションと環境」

□ 統括・記念講演

「新・日本人の余暇」

青木利夫氏：文教大学教授

□ シンポジウム

【第1シンポジウム】 会場：5124番教室

テーマ「レジャー・レクリエーションにとって望ましい社会環境を探る」

パネリスト

川上和久氏：明治学院大学助教授

嵯峨寿氏：余暇開発センター研究員

佐々木享氏：トヨタ自動車㈱事業開発部部长

林裕三氏：日本体育施設運営㈱会長

司会

松田義幸氏：筑波大学・多摩大学客員教授

【第2シンポジウム】 会場：5125番教室

テーマ「地球・自然環境との調和あるレジャー・レクリエーションのあり方を探る」

パネリスト

糸賀黎氏：筑波大学大学院環境科学研究科教授

西田不二夫氏：㈱プレック研究所専務取締役

井上忠佳氏：建設省国営昭和記念公園工事事務所長

油井正昭氏：千葉大学園芸学部助教授

コメンテーター

永嶋正信氏：東京農業大学教授

下村彰男氏：東京大学農学部助手

総括

進士五十八氏：東京農業大学教授

司会

杉尾邦江氏：㈱プレック研究所専務取締役

＝日本レジャー・レクリエーション学会第22回大会実行委員会＝

委員長	石井允			
委員	松浦美代子	松田義幸	杉尾邦江	下村彰男
	坂口正治	寒川恒夫	寺島善一	油井正昭
	梅津迪子	矢川律子	梅澤佳子	

統括・記念講演

新・日本人の余暇

文教大学教授

青木 利夫

元朝日新聞社ヨーロッパ総局長で20年前の名連載企画「日本人の余暇」の担当責任者。
中でも花ゲリラの話は多くの人に感動を与えた。

日本レジャー・レクリエーション学会第22回大会 シンポジウム

21世紀を前にし、日本人の価値観、ライフスタイルが、自由時間の拡大を背景に「モノからころへ」そして「生活の第一の力点がレジャー・余暇生活に」と、変化しつつある。1960年代から提起され続けてきた「レジャー時代の到来」は、今や国民一人ひとりにとって現実のものになってきたといってよい。しかし、国民の側からのこのレジャー・レクリエーション需要（L / R）爆発に対し、供給側のL / R環境整備は著しく立遅れている。このためにわが国はいま様々な問題に直面している。あまりに金のかかりすぎるL / R生活環境（L / R産業）、魅力に乏しいL / R公共サービス（L / R行政）、L / R享受能力の低い日本人（L / R教育）、硬直的な生涯生活時間配分制度（タイムバジェットの人間化）リゾート開発と環境破壊（環境保護・保全）等々。

そこで本年度の学会大会のシンポジウムは、これらL / Rの直面する環境整備問題を、次の2つの視点でまとめ、扱ってみることにした。

- ① L / Rと社会環境整備 — L / Rにとって望ましい社会環境のあり方を探る。
- ② L / Rと自然環境整備 — 地球・自然環境との調和あるL / Rのあり方を探る。

第一シンポジウムのねらい

レジャー・レクリエーションにとって望ましい 社会環境を探る

人生80年、労働生活とL / R生活をいかに充実して生きるか。いまやL / Rは国民一人ひとりにとって重要な課題である。わが国政府は、豊かさゆとりある生活の実現ということで、労働時間短縮の促進に力を入れているが、自由時間の増大がそのままL/R生活の満足につながるものではない。

それはL / R生活にとっての重要な条件ではあっても、L / R生活そのものではないからである。わが国のL / R生活は、L / R享受能力の高くないところに加えて、お金がかかりすぎる（所得消費的L / R）。このために、所得的に恵まれていない人たちとの間、L / R享受機会の格差が生じてきている。この格差を是正するためには、L/R生活のために、あまりお金のかからない社会生活環境を整備すべきである（時間消費的L / R環境の整備）。

このような問題意識から、新しい方法論として、注目されてきているのが公共部門（財政）と民間部門（市場経済）の協力、強調を促進するフィランソロピイ、メセナ活動である（文化経済学）。

そこで、本学会大会の第一シンポジウムでは、

第一に、日本人のライフサイクルからとらえたL / Rの問題。

第二に、時間消費的L / R社会環境を整備する方法。

第三に、L / Rにとってのメセナ活動、フィランソロピイの役割。

第四に、70万時間（人生80年の生涯生活時間）の人間化に向けての社会

について、参加者全員からの意見交換を交えて、討論を行いたい。

第一シンポジウムの課題とパネリスト

1) 第一の問題について

「7カ国L / R活動選考調査」から、日本人のL / R享受能力が低く、また加齢につれて、なぜL / Rに消極的になるのか。

パネリスト：川 上 和 久

明治学院大学助教授

2) 第二の問題について

「勤労者の余暇ニーズに関する意識調査研究」（労働省）結果を参考にしながら、日常性のL / R環境整備の新しい視点を探る。

パネリスト：嵯 峨 寿

余暇開発センター研究員

3) 第三の問題について

L / R産業の魅力とフィランソロピイ、メセナ活動のあり方について。

パネリスト：佐々木 享

トヨタ自動車㈱事業開発部部長

林 裕 三

日本体育施設運営㈱会長

通産省産業構造審議会生涯学習部会委員

4) 司会と第四の問題について

パネリスト：松 田 義 幸

筑波大学・多摩大学客員教授

第二シンポジウムのねらい

地球・自然環境との調和あるレジャー・レクリエーションのあり方を探る

人間の永続的生存を目指すビジョンが全人類的規模で求められている。このことは人類の生存のためには地球の存続なしには考えられないからである。このためには、持続的な生態的ビジョン、則ち個々人がエコマインドを持つことが必要である。人類は今、地球規模での環境を共有資源として認識することが必要である。従って、環境保全と自然保護、有限的自然資源の持続的活用の方法論を開発し、これを実行することが人類にとって際立った今日的課題であるといえる。

この人間の生存というビジョンが求められる現在、プレイ・レジャー・レクリエーションについてこれまでの概念変化が求められなければならない。

これからのレジャー・レクリエーションといった遊びの概念に、地球、環境、生態的及びこれらの持続可能といった価値概念を導入した新しい概念を究明することが望まれる。ここに3つの問題点が指摘される。

人類が如何に生きるかを問うことは、則ち、我々は如何に遊ぶかということでもあり、如何に人間が環境と共存して生きるかということである。従って第二の問題としては、レジャー・レクリエーション資源、場の形成と提供は親自然的、環境保全に効果的な持続性をもったものでなくてはならない。

第三の問題として、以上のことを如何に普遍的に誘発実行していくかという方法論、手法論を見出すことである。

第四の問題点としては、以上の3つの点を具体的に検証し、問題点、課題点を明確にし、これを認識することにある。

本学会のシンポジウムでは以上のことを次に記す4つの課題として、話題提供を行い、これに対してコメンテーターのコメントによって、更に論議を深め、参加者全員からの意見交換を行ってワークショップ方式によって進行し、最後に総括を行って終了させることとする。

第二シンポジウムの課題とパネリスト

- 1) “持続可能性”からみた地球環境と調和、共存するレジャー・レクリエーションの新たな概念の構築

パネリスト：糸 賀 黎

筑波大学大学院環境科学研究科教授

- 2) 地球環境と調和共存するレジャー・レクリエーション資源、空間、施設の開発整備と環境保全

“我国のリゾート開発の直面する問題点と整備について”

パネリスト：西 田 不二夫

株式会社プレック研究所 専務取締役

東京工業大学講師

環境庁環境基本法検討委員会委員

- 3) 都市環境における地球環境と調和共存するレジャー・レクリエーション活動の展開と課題

パネリスト：井 上 忠 佳

国営昭和記念公園工事事務所長

建設省関東地方建設局

- 4) 環境と調和共存するレジャー・レクリエーション資源、空間、施設のデザインとその整備について親自然的方向を求めて

パネリスト：油 井 正 昭

千葉大学園芸学部助教授

- 5) コメンテーター

永 嶋 正 信 東京農業大学教授

下 村 彰 男 東京大学農学部助手

- 6) 総 括

進 士 五十八 東京農業大学教授

- 7) 司会・進行

松 尾 邦 江